

【プログラム14:ファミリーアクション Yes or No ～あいさつ、手伝いどうしてる～】

☆ねらい：子どもに家族の一員であることの自覚をもたせるためのアイデアを考えるを通して、子どもの成長の基盤は家庭にあることを再認識する。

《プログラムの概要》

キーワードの例	あいさつ、役割
時間	20分
人数	何人でもできる。
活動形態	全体+グループ（1グループは4～6名がよい）
準備物	2色のカード（どんな色でもよい、2色を1人1枚ずつ、大きさ自由）を人数分
主な活動	①子どもの生活を振り返る。 ②家庭での「あいさつ」や「手伝い（役割）」について話し合う。
気を付けること	○話し合うときは、「あいさつ」か「手伝い（役割）」のどちらかにテーマをしばった方がよい。
備考 (アレンジ等)	○参加者全員が、問いに対しての意思表示を同時にするために、カードは2色用意する。全体的な傾向を参加者に知らせるのは、進行役でもいいし、参加者から1～2名の協力者を募ってもよい。
他プログラムとの関連	なし

【プログラム14：ファミリーアクション Yes or No
～あいさつ、手伝いどうしてる～】

時間	形態	講座の流れ
1分	全体	1. ねらいを確認する。【1分】 [キーワード] ○あいさつ、役割
17分	全体	2. 子どもの生活を振り返る。【5分】 ①問い（次ページ）に対して、意思表示をする。 ・「ある」「している」の場合は●色のカード ・「ない」「していない」「わからない」の場合は◆色のカード ②全体的な傾向を参加者に知らせる。
	グループ	3. 家庭における「あいさつ」や「手伝い（役割）」について、話し合う。【7分】 ◎自分の家庭ではどうか。 ○「あいさつ」の場合、子どもの様子、親自身、家族に対して等、幅広い状況を考える ◎自分が子どもの年代の頃はどうかであったか。 ◎親として、どんな声かけが大事か。 ○「手伝い（役割）」で、継続させやすいものはどんなものか。 ※「あいさつ」か「手伝い（役割）」のどちらを主に話し合いをするかを決める。 ※手伝い（役割）は、比較的取り組みやすいものを例示する。 例：自分が使った茶わんは、流しまで運ぶ 洗濯物は自分でダンスに片付ける など
	全体	4. 話題になったことを紹介する。【5分】 ※どんな声かけが大事かを発表してもらった時は、実際に子どもに語りかける口調で言ってもらおう。
2分	全体	5. まとめ【2分】 子どもに「家族の一員」という自覚をもたせるためには、毎日の生活（ことばかけや態度）を大事にしていくことが必要だ。 また、子どもが、食事を作ってくれたり掃除や洗濯をしたりしてくれる家族への感謝の心をもつように、ことばかけをしていくことも大事だ。 家族の一人一人が何らかの役割を果たし、家族が成り立っていることを子どもに伝えていくことを忘れないようにしたい。

【ファイアアクション Yes or No

～あいさつ、手伝いどうしてる～：補助シート】

問い

- ①毎朝、自分（親）から、「おはよう」と言う。
- ②毎朝、子どもから「おはよう」と言う。
- ③子どもは、「行ってきます」「ただいま」を必ず言う。
- ④子どもには、決まった手伝い（役割）がある。
- ⑤子どもは自分の洗濯物は自分で片付けている。
- ⑥食事の時は、必ず、「いただきます」「ごちそうさま」を言う

※問いの内容は、変えてよい。

※この例の中から、数問選んで取り扱ってもよい。

◇全体的な傾向を参加者に知らせるときは、参加者から1～2名
手伝ってもらってもよい。

（●色と◆色のどっちが多いかなどを判断してもらおう。）